



# 在京関中一高会 会報



## 故郷や母校への熱き想い強し

在京関中一高会会長 柳澤 惇 (昭和32 - 56回卒)



在京の同窓生の皆様には於かれましてはご健勝にてお過ごしのことと拝察致しております。

永らく課題でありました若返りにつきましては、ひと頃の約120名の出席者が140名近くになった中で実現してまいりました。

しかし、昨年は100名の出席者に止まりました。有力年次の同期会が総会近傍で開催されたこと、若い人達には不況の影響もあったのでしょうか。

一方、昨年8月23日(日)に豊島公会堂でミュージカル「平泉 夕焼けの向こうに」が公演され、故郷想いの観客で満員になり、舞台と客席が一体となって大変に盛り上がりました。総会ご案内の中に入れました公演ご案内から口コミで多くの人達に伝わったからではないでしょうか。公演の東京事務局方としては感激の至りでした。

又、この3月末に例年通り母校野球部が関東に遠征して来、佐倉南高との練習試合には真冬並みの寒い日にも拘わらず20名以上の先輩達が応援に駆けつけてくれました。試合終了後、我々の激励に対して主将は「渾身の練習を積んで甲子園を目指す」との力強い返答がありました。その後のOB懇親会には昭和18年卒の小嶋大先輩も出席され、昭和21年以来、あと1回勝てば甲子園というチャンスが3回あったが残念ながら叶わず、が話題になり切ない思いを新たにしました次第です。大半は古希の先輩達が「我々の目の黒い内に甲子園に行けなければ人生は完結しない」とばかりに熱気に包まれて散会したのです。

さて、今総会の講演は郡山在住の作家、星亮一氏(昭和29-53回卒)に「会津藩と長州藩」と題して坂本龍馬が活躍した幕末についてお話し頂くことになっております。時節柄、皆さん、大いにご期待して下さい。

先にも申し上げましたように昨年は100名の出席でしたが、以前のように120名程度の会にしたいと思いますので、同期生だけでなく後輩やご兄弟、ご親戚の方にもお声をかけて頂きたく宜しくお願い致します。

## 新任ごあいさつ

一関一高 校長 木村 毅



例年より寒暖の激しい冬が終わり、北国の遅い春が再び巡って参りました。

私は、この4月より山田市雄校長の後任で皆様の母校にお世話になっております、木村毅と申します。すがすがしい緊張感とずしりとした責任感をエネルギーに精一杯尽力したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

在京関中一高会の皆様には、いつも母校に対する熱い思いと期待を寄せてご支援をいただいておりますことに敬服

## 転任に当たって

一関一高 前校長 山田 市雄



在京関中一高会の皆様には、常日頃から母校に対し熱い思いを抱きながら日々ご活躍のことと存じます。

さて、私事になりますが、この度の人事異動により盛岡第三高校の勤務を命ぜられ過日着任したところであります。一関一高にはわずか二年間だけの短期間ではありましたが、皆様には毎年6月に大変密度濃く懇親を深めさせていただいただけ

## 隆盛発展のなかに 変動あり

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21 - 45回卒)



東京支部の皆様、何時も同窓会運営に御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

特に、昨年の市民ミュージカル東京公演の節は、物心両面にわたり多大なる御後援を頂きまして衷心より感謝申し上げます。

昨年10月仙台支部総会で、支部会長は新妻博敏会長(65回)から千葉信博会長(64回)に替わりました。さらに、関西支部総会で、永年支部会長を勤められた小野寺正芳会長(49回)から副会長の金野衛氏(57回)にバトンタッチされました。小野寺前会長は、戦後初めて甲子園に出場した時の名二塁手で、6年前のセンバツ出場の際は、関西支部挙げてめんどうを見て頂きました。厚く御礼申し上げます。

学校では、年度末の異動で16名の転勤・退職の発表がありました。山田校長先生は盛岡三高の校長に転出。佐藤信幸副校長先生は住田高校の校長に、加藤孝夫先生は久慈高校副校長に、同窓生の会誌担当の遠藤加奈子先生は久慈拓陽支援学校の副校長に、それぞれ昇任転勤致しました。3月と4月は、卒業式・入学式・送別会・歓迎会と、「別れと出会い」の慌ただしい日が続きまして。

本年度の同窓会は、学年理事の補充、同窓生の著作本の充実、附属中との内的つながりの検討などを進めたいと存じます。同窓生の皆様には、今後何卒よろしく御協力をお願い申し上げます。御挨拶といたします。

## 平成22年度総会・講演会・懇親会

平成22年6月13日(日) 午前10時半受付開始  
東京(大塚) ホテルベルクラシック東京  
講演「会津藩と長州藩」  
講師：星 亮一氏(昭和29-53回卒)

たしてあります。

さて、学校は新たに中学生80名と高校生248名を迎え、総勢900名を超える生徒が在席する大規模な学校となりました。さらに、この生徒たちの教育環境をいっそう整備するために、体育館東側の柔剣道場の場所に新たに2階建ての体育館を建設することが6月の県議会に上程されることになっており、平成23年度中の完成を目指すこととなります。ますます整備される教育環境の中で、これからは、中高一貫した教育の基盤をさらに盤石にし、「高志」、「温故知新」、「不屈不撓」、「遂げずばやまじ」のモットーを受け継ぎながら、一層の教育内容の向上と人格の陶冶に努めて参りたいと考えております。

引き続き皆様のご支援・ご厚情を賜りますようよろしくお願いいたします。

6月には東京でお会いできることを楽しみにしております。

に大変残念な思いで一杯であります。在任中は、一年目が新校舎落成並びに創立110周年記念式典の開催、併せて岩手県の公立学校では初となる附属中学校の開校準備、二年目は附属中学校の開校、そして一関一高が第三の草創期ともいえる中高一貫教育を行う学校としてスタートしたこと、いずれも本校にとっては歴史的な転換期でありました。このような時期に、進取の気性に富んだ活潑な「関高生」に囲まれ、その「関高生」を温かく見守る地域や同窓会の皆様に支えられながら勤務できましたことは、私の30余年の教員生活においてもっとも思い出に残る充実した二年でありました。一関一高と附属中学校のますますの飛躍と隆盛、そして在京関中一高会のご発展を祈念申し上げ転任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

# 平成21年度在京関中一高会 総会・講演会

## 第1部 総会



母校校長挨拶

佐藤成元氏へ感謝状



ミュージカル平泉へ寄附金

41回（昭和17）  
～55回（昭和31）



56回（昭和32）  
～59回（昭和35年）



60回（昭和36）  
～86回（昭和62年）



## 第2部 講演会

映画祭で地域を活性化させる、世界を交流させる

講師：小松澤陽一氏（昭和44-68回卒）



# 第3部 懇親会

平成21年6月28日 ホテルベルクラシック東京



**「幻の小山飛行場」の語り継ぐ会を引き継いで、胆沢劇場が公演**

太平洋戦争の末期、昭和20年4月から6月まで、関中3年生は、動員学徒として、現在の奥州市胆沢区内の飛行場建設工事に従事した。岩手県下の中学校、実業校など20余校、2千数百名が参加して、長さ2km、幅60mの滑走路を作り上げた。

平成12年になって、動員学徒の有志の呼びかけで、当時の思い出の原稿を募集して「幻の小山飛行場」(B5版507頁)を刊行、今は元の田圃に戻った飛行場跡地に記念碑を建立した。平成15年から、地元の中中学生200名を対象に、「飛行場建設体験を語り継ぐ会」を開催、昨年まで6回続けたが、学徒も80歳を数えてこの回で最後としました。

この度、胆沢劇場が「幻の小山飛行場」をテーマに、「十五の春-幻の小山飛行場」(2幕19場)を、去る2月28日、胆沢文化創造センターで公演。動員学徒30名が観劇した。

母校の図書室には、「幻の小山飛行場」(初版から続7集まで)と今回の「十五の春」のプログラム、台本103頁ものを寄贈していますので是非ご覧下さい。

小山動員学徒佐藤健男(昭和23 - 47回卒)

**ミュージカル「平泉」  
夕焼けの向こうに**

豊島区公会堂  
平成21年8月23日



## 同期会ニュース

いざよい会(44回-昭20)：卒業65年を記念して、今年4月25日に一関「松竹」で「いざよい会」総会開催。「東京いざよい会」を5月21日銀座で開催する。(今出)  
二六会(50回-昭26)：一昨年喜寿を祝った二六回は、昨年三冊目の「綴り方清書帳」を発刊。還暦記念、古希記念でも発刊。今回は、同期41名の原稿掲載。A4版113頁、300部発行。五一会(51回-昭27)：喜寿を祝う同期会を昨年6月に開催。附属中学校に10月18日応援旗3枚を寄贈した。(岩淵)  
三三会(57回-昭33)：一昨年、卒業50年・古希を祝う会を開催した記念に、昨年5月、記念誌「燦々(さんさん)」を発行。A4版200頁で260部発行。113名の会員の寄稿から成る。(安生)  
三四会(58回-昭34)：昨年11月15日、厳美いつくし園に恩師佐藤拓郎先生及び66名の同期生が集まり、「古希祝い」開催。16日は、40名が母校訪問。中尊寺の山田俊和貫主揮毫の「遂げずばやまじ」の額を一高及び附属中に寄贈した。(清野)

珊瑚会(59回-昭35)：平成21年9月6日～7日、厳美・瑞雲閣に関東地区21名を含む91名が出席して、珊瑚会50周年のつどいを開催。恩師安富有恒、佐藤拓郎両氏がお元氣に出席。翌日は、厳美・祭時の地震被災地視察、骨寺荘園遺跡見学の後、母校を訪ねて校長に面会。寄付金を贈呈するとともに、新装なった校舎、付属中学校の授業風景などを見学した。(高岡)  
関東地区珊瑚会(59回-昭35)：平成22年2月6日(土)、東京駅前の八重洲富士屋ホテルで、平成22年度の総会・懇親会を開催。参加者総勢51名。当地区会員40名に、今回は一関、盛岡、仙台など他地区から11名がゲストとして参加。賑やかで楽しい語らいと熱気は二次会・三次会まで続いた。(高岡)  
在京39会(63回-昭39)：昭和20年生まれの在京同期会。今年は20回目となります。来る11月、全国の仲間を集めての東京開催を、須藤正夫君中心に企画。(小山)  
獅子の会(68回-昭44)：還暦を迎え、去る2月20日(土)松島・瑞巖寺をお詣り、ホテル大観荘で祝宴。50名出席。2月初めの中尊寺・豆まきと来年の山寺詣りで、東北三大寺参拝で厄払い。(渡辺)

## 会員トピックス

島津光夫(44回-昭20)：元新潟大学教授、理学部長。昨年12月25日、「毛越寺庭園ものがたり」(一関プリント社・750円)出版。毛越寺庭園を主題に観自在王院、白水阿弥陀堂(いわき市)にもふれている。(今出)  
黒澤 融(44回-昭20)：書道家(号：白山)学書院審査会員。主宰する白山書道会の開設30年を記念し、今年3月18日～21日、松戸市文化ホールで白山書展・白山会員書道展開催。20日には、記念パーティー。同期生今出吉郎ほか4名が参加。(今出)  
千葉重郎(49回-昭26)：洋画家、一線会員。昨年10月5日～14日、上野・東京都美術館での「一線会展」に悠大な海岸が印象的な作品を出品。一線会武蔵野支部をリードしている。  
佐藤成元(51回-昭27)：日本画家、日展会員。母校に作品寄贈。昨年10月30日～12月6日開催の「第41回日展」に、「何処へ」を出品。角が立派なヤギを描く。動物に託した作品で有名。  
伊藤孝雄(54回-昭30)：劇団民芸俳優。昨年から地方公演で全国行脚。今年6月22日～7月4日、東京新宿西口、紀伊国屋サザンシアター登場。三好十郎作「峯の雪」出演。公演中に観劇会・懇親会企画。どなたでも大歓迎。(安富)  
前岡光明(58回-昭34)：技術士(建設)作家活動に拍車。アジア文化社「文芸思潮」・第6回銀華文芸賞で「白い哀しみ」で河林満賞受賞。今年1月31日、大田区民プラザで授賞式。  
千葉忠夫(58回-昭34)：デンマーク在住。日欧文化交流学院学院長。昨年9月PHP新書「世界一幸福な国デンマークの暮らし方」を出版。5月11日(火)午後6時半から、船橋市民文化会館、きららホールで講演会「デンマークの福祉・教育を考える。」参加費500円。(清野)

島地勝彦(59回-昭35)：作家、集英社元編集者。平成19年7月開催の在京関中一高会総会で記念講演講師を務めた島地勝彦氏は、その後、集英社の編集者から作家に転身。昨年秋のデビュー作から今年4月まで3作を連続上梓。これを記念し今後の活躍を激励する「島地勝彦君 激励会」を、今年4月23日に新日鉄代々木倶楽部で開催。一高・中里中出身者を中心に45名が集う同窓の会となった。「甘い生活」、「えこひいきされる技術」、「乗り移り人生相談」(いずれも講談社刊)です。ご一読をお勧めします。(高岡)  
本郷孔洋(63回-昭39)：辻・本郷税理士法人 理事長。300人の公認会計士、税理士を統括。著書に「わかる環境経営」、「環境ビジネスがあしたを作る」など。去る2月8日、日経新聞社主催の「企業の環境経営と会計」フォーラムで、「会計から見る環境ビジネスのパラダイムシフト」と題して基調講演。聴衆600名。(小山)  
小山芳郎(63回-昭39)：元NHKディレクター。フリーのジャーナリスト、プロデューサーの立場から、NHKラジオ第1「ラジオあさいちばん」で時々(?)放送に出演。5月4日(火・祝)は、「モリシゲが最後に歌った唄」小山氏と森繁久弥氏の次男との対談。(小山)  
宇田川(佐藤)恵利(86回-昭52)：声楽家、ソプラノ。在京関中一高会、一関ふるさと会でゲストとしてその美声を披露。昨年12月27日の「いちのせき第九演奏会」では、鈴木秀和(107回-平17：東京芸大)テノールとソリストとして出演。今年3月には、弟子の会「恵(さと)の会」結成。また、一関婦人会の歌「ひまわり音頭」を録音。6月28日は、赤坂・紀尾井ホールで、ブッチーニのオペラ「修道女アンジェリカ」で修道女ジェノヴィエツァを演じる。(清野)

## クラブOB会ニュース

母校野球部首都圏遠征：今春で14回目、千葉市のホテルに宿泊して県内公立高・私立高相手に6戦4敗2引き分けとなった。初日29日の佐倉南高で母校愛をこめて集った同窓生20余名を代表して柳澤会長よりの金一封が野球部OB会前田会長から「叶うぞ・夏の大会優勝」の檄文も添えて小松主将(花泉中出身)に贈呈。3日間の試合に一関から小嶋甲子男先輩(42回-昭18)、稲辺OB(59回-昭35)が応援に駆けつけた。当地佐倉は20年9月に逝去された佐々木政蔵先輩

(55回-昭31)が居住しておった地でもあり、鈴木監督からご家族へ弔意を示され、また試合後、昨年3月28日に他界された木村二郎OB(59回-昭35)の偲ぶ会と懇親会が行われた。最終日の31日は松戸に住む、八重柏・清野・上木同窓生と選手のご家族も応援。大きな故障者もなく無事遠征終了。5月8日の春季大会、7月14日からの夏季本大会に臨む。(在京野球部OB会幹事 小原史郎 65回-昭41)木村正太巨人軍投手：背番号も92から15に、レギュラー番号となって今年に期待が大きかったが、キャンプ後半右肩肘を痛め、ボールも握られない状態で正常回復に努めており焦りは禁物。(在京野球部OB会副会長 菅原克彦 58回-昭34)

## 岩手県人連合会ニュース

平成22年度岩手県人連合会総会(第36回 岩手県人の集い)  
平成22年6月6日(日) 午前10時受付開始、午後2時半終了予定  
会場は、初の日暮里駅南口すぐ、ホテルラングウッド。  
アトラクションに、世界無形文化遺産財指定「早池峯神楽」。  
参加費 1名 8,000円。  
参加希望者は、在京関中一高会まで。案内・出欠葉書、振込用紙送付。  
岩手県人会ホームページは、<http://www.rengokai-iwate.jp>

## 事務局便り

会費納入のお願い  
本会は、会員の皆様の年会費で運営されています。年会費1名1,000円の納入をお願いいたします。振込用紙は事務局に請求してください。  
編集後記  
ホームページで情報を要チェック! <http://www.ichinoseki-1.com/>  
在京関中一高会・事務局  
〒164-0001 中野区中野5-67-3 黒澤事務所内  
TEL: 03-3388-2316 FAX: 03-3388-2570 (編集委員長・清野)